

平成 30 年度

事業所名 : グループホームあやめ 1階

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100246		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームあやめ 1階		
所在地	盛岡市神子田町8-27		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/index.php?action=detail_2017_022_kanetsue&ji_gyosyoCd=0390100246-00&PrefCd=03&Versi-onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年10月18日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に安全・安心なサービスを提供し自分の能力を活かし楽しく生活できるように努めている。軽運動で筋力低下を予防している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階建の2ユニットからなる事業所は住宅が密集した一角にあり、少し足を延ばすと盛岡八幡宮や歴史の残る町並みがある。今年はユニット毎に3か月の目標を立て、ヒヤリハットの面では事故の減少に繋がりが、外出支援では利用者の生き生きとした表情が多く見られるようになっている。利用者は、趣味活動や食後の団らん、運動などと、メリハリのある1日を過ごしており、表情は明るく動きも軽やかである。職員は、利用者に寄り添い、利用者が自分らしく過ごせるための工夫や努力が見られ、家族からの信頼と安心感も得られている。運営推進会議の委員には6名の地域代表があり、地域の情報が多く寄せられ地域との橋渡しも快く引き受け、避難訓練やホーム行事にも協力頂いている。これからも運営推進会議等を通し、地域との交流の拡がりが一層期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

平成 30 年度

事業所名 : グループホームあやめ 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲示いつでも確認できるようにしている。勉強会の時に話題に出したり日々の中でも本人はどう思っているかを考えながら表情や仕草からも気持ちを汲み取るようにしている。	理念は、廊下の目に付く所に掲示している。職員は「あの表情は、こう解釈できるよね」等互いに確認しあいながら、利用者の行動の意味を理解するよう努め、利用者が、地域で生き生きと過ごせるような工夫や楽しみ見つけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進協議会を通じて交流の輪を広げている。地域の行事に声を掛けてもらったり天気の良い日は地域の中を散歩する等して顔を覚えてもらえるようにしている。	町内会に加入し、地域の行事や避難訓練などにも参加している。夏の納涼祭では、子供万灯がホームの前まで来るほか、年2回の商店街の出店催しでは小学生との交流もあり、利用者が手をたたき大喜びする場面が見られる。朝市では笑顔で店員と話す等、ホームではない表情が見られる。	現在、ホーム内の行事には、地域住民として、運営推進会議の委員が主に参加している。地域代表が多い運営推進会議へ働きかけ、ボランティアや保育園児、子供会等を招いて、事業所での交流にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会の中で話題に上げる等している。行事に招待し利用者の状態を見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回会議を開催している。その中で利用者の状況や活動状況を報告している。地域の行事を知らせて頂き参加している。避難訓練等で出された意見等を取り入れたりしている。	会議は1階のホールで開催し、町内会長等をはじめ地区代表としての地域住民6人が主なメンバーである。委員は、ホームの行事や避難訓練などへの参加があり、地域との橋渡しや、地域の詳細な情報提供等も頂いている。会議録は職員にも回覧し、会議の共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設時から情報提供や指導を受けている。介護認定や生活保護受給者の受け入れ等担当者と連絡を取り合い支援している。	市からの情報は主にメールで伝達され、分らない時はすぐ電話で確認を取る等、緊密な連携が図られている。避難訓練計画や地域高齢者の集まりなど身近な情報提供も頂いている。運営推進会議の結果は文書で市に伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回内部研修にて理解を深め職員の意識を拘束しないケアに向けている。特に言葉による行動抑制をしないよう働きかけている。神子田町は鍵かけモデル地区となっており昼夜鍵をかける事を実践している。外鍵はかけるが内戸の鍵は開け希望時は職員と一緒に外に出られるようにしている。	社内研修を年2回実施し、日常のケアの気づきや注意喚起に役立てている。特に強い語調や行動抑制に繋がる「ちょっと待って」と言って長時間待たせた時などには、その都度、対応の仕方などを確認合っている。玄関の外鍵は、町内鍵かけモデル地区のため施錠しているが、内鍵は夜間のみにし、外出願望の利用者には一緒に出掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で理解を深め、職員同士で声を掛けあえる環境作りに努めている。虐待に至る前に防止できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当職員が対応している。成年後見制度や社会福祉協議会の自立支援事業を利用している利用者が数名おり連絡を取り合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族の心配事を良く聞き納得したうえで契約して頂けるようにしている。出来る限り本人に見学して頂き雰囲気を感じてもらえるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプラン説明時、行事の際に普段の生活状況を伝えたり記録を見てもらう等して希望や意見を聞くようにしている。	家族が来訪した際は必ず声掛けし、記録を見ていただきながら最近の情報や普段の生活の様子を伝えている。家族からは、散歩の機会を増やして欲しいとか、敬老会のスナップ写真を希望する声があり、利用者は、洗濯物の色落ちや職員の声掛けに対する注文等、身近な意見、要望が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議や申し送り時のみに限らず普段から意見や考えを聞き取るようにしている。各係の活動については職員がアイデアを出し合い話し合いで進めるようにしている。	管理者は、日頃から申し送り時や毎月の会議で職員の意見・要望の把握に努めている。職員は、行事、防災、リスク、環境の各係に属し3ヵ月毎の重点目標を立て、全員がホームの運営に参加している。利用者の夏場の早起きに合わせた早朝出勤の提案等もある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会に職員が所属するとともに担当を持つことにより役割と責任を持って働けるようにしている。資格取得についても積極的にバックアップしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニット会議の際に勉強会を取り入れたり、経験や技術に合った研修に参加できるように配慮し、職員の技術・知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に参加したり同系列のGHに意見を聞くなどして自分たちの介護に活かせるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ見学して頂き、今の困りごと・不安事を伺うようにしている。本人が安心して生活するために必要なサービスを確認しながら関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点から話をよく聞くようにしている。また、入居後も連絡を取り合いながら要望を聞き取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく伺い、今何が必要な支援か見極め、場合によっては他のサービスの情報提供も出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の出来る事を手伝って頂いたり能力に合ったレクの提供をしたりしている。また、山菜の下処理や調理方法・団子作りなどは得意な方々に教わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事と一緒に参加してもらったり外出や外泊の支援をしている。日々の生活の状況を知らせる等して本人の状態を把握してもらるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の面会、子供時代の町を散策する等している。	共に働いた仲間が時折訪ねて来るほか、訪問理容でシャンプーや髪染を利用する人もいる。町屋の雛祭りや朝市に出かけ、一頃の生活を懐かしんでもらったりしている。子ども時代を過ごした街並みを散策しながら「〇〇ちゃんはどうしているかなー」等と、学生時代に思いを馳せる場面も見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に協力して行えるレク活動や調理の下準備等の場面作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に行くなどして関係を継続する様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人にどうしたいかを聞いている。また、表情や会話の中からも思いが聞けるよう耳を傾けている。	利用者の動き、ことば、表情を受け止めメモしたものを記録に残し、言葉には出さない思いや意向の把握に努めている。トイレに手を差し込む行動が、家族からの情報で実は綺麗好きの行動と分かるなど、思いがけずに本人の意向を把握できることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からこれまでの暮らし方を聞き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情・行動・会話などから把握するように努めている。変化があれば申し送りノートを活用し職員が情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度カンファレンスを行い利用者全員の状況を話し合っている。3か月ごとにケアプランを見直している。	記録されたメモ等をもとに、居室担当がモニタリングをし、全体会議で話し合い、医師の意見も入れてプランを作成している。家族の意見は、来所時や郵送で確認をしたり、必要な場合は家族に来てもらっている。3ヵ月毎に見直し、状態に変化が見られたり、退院後には必要に応じて見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の生活ぶりや発言、日々の暮らしの中での気づきなどを記録している。申し送りノートも活用し情報共有しながらケアプランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人が今何を必要としているかを考えながら柔軟な支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人で外へ出て行く方は家族の了承の下事前に警察に情報提供をし安全に生活できるようにしている。運営推進委員の方々に顔を覚えて貰ったり散歩に出て地域の方々と触れ合いながら生活できるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を踏まえ、協力医の訪問診療を受けたりかかりつけ医を受診するようにしている。	本人・家族希望のかかりつけ医としているが、訪問診療に変更する利用者も多く、月1回の訪問診療と歯科の往診がある。受診は家族同行を原則としながらも、数名は職員が同行している。眼科受診時や緊急時には職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる事や相談事は協力医へ電話連絡し相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や退院時の連携のみではなく、お見舞いに行ったり家族に状況を伺う等して現状把握に努めている。病院の看護師・相談員と相談しながら早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の希望の他、状態の変化があるごとに家族・主治医と相談している。	入居時に看取りに関する指針について説明し、現時点では医療連携や酸素、栄養管理、入浴対応等が整備されていないことを理解いただいている。利用者が急変した場合は、主治医、家族と連携し支援している。現在のところ、法人全体としての看取りに関する方針は、明確にされていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて勉強したりマニュアルを確認する等していつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練には運営委員の方々にも参加してもらっている。水害に関しては避難指示の段階から速やかに避難できるよう常に避難時の荷物を用意しすぐに対応できるように備えている。	過去にも水害があった地域でもあり、災害の怖れがある場合には、運営推進会議の委員からも逐次情報が入る。水害時の避難マニュアルを作成し、緊急情報の度に法人と連絡を取り、荷物の準備や経路、手段の確認をしている。地域自主防災組織に未加入のため、すぐ側のアパート住民の協力を大家に打診中である。夜間の火災避難訓練を職員で実施し、暗さの中での課題を確認している。自家発電機やヘルメット等を備え3日分の食料等を備蓄し、防災係が点検管理している。	ホームは2階建てで、非常階段が外部へ設置されている。職員の夜間想定避難訓練のほか、非常時に備えて慌てないためにも、利用者が参加した夜間想定避難訓練も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した声掛けを心懸けている。周りで聞いていてきつく聞こえるような時はお互いに声を掛けあっている。	呼び捨てや親しくなり過ぎて「ちゃん」づけで呼んだりすることのないよう、職員同士声を掛け合い確認している。排泄を失敗した時には、自尊心を傷つけないように、さりげなく取り換えている。「手伝ってもらった時は感謝をする」等、当たり前のことを目標に掲げ、虐待の防止に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が何をしたいかを聞いたり表情から推察する等している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースで生活して頂けるよう配慮しているが、入浴など職員の都合に合わせて頂くこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたものを着ていないか・季節に合った物を着ているか等気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備や下膳・片付けなどは一人一人の能力に合わせて行って頂いている。	栄養バランスに拘り、献立は本社で立て、利用者から「おいしい」と言ってもらえる食事の提供に努めている。下ごしらえから調理、後片付け等、利用者は得意な仕事に参加している。誕生日やクリスマス会にはケーキで祝い、今回の敬老の日には、他の事業所と合同でホテルで食事を楽しんだ。行事の際の外食を増やす検討をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事形態としている。1日を通して必要量を確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後口腔ケアを行っており一人一人に合った方法で介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせたタイミングで声掛けしトイレ誘導している。なるべくトイレで排泄出来る様声掛けしたり動作などから汲み取るようにしている。	排泄チェック表を基に、一人一人のリズムに合わせて声掛けをしたり、表情を見てトイレ誘導をしている。昼夜とも全員トイレ使用である。完全自立の人も数名おり、ほとんどが布パンツかりハビリパンツにパットを併用している。リハビリパンツから布パンツや失禁パンツに改善した人も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ったり体操をしたりしている。食事面でも根菜類や牛乳・ヤクルト・ヨーグルトを用いて気持ち良く排便できるように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活の流れでタイミングよく入浴できるように声掛けしている。	週2、3回午後入浴で、自分で着替えを準備する人もいる。必要な部分の介助に留め、自立を促している。入浴を拒む人には無理強いないで、風呂場で薬の塗布や足浴、肌着の着替え、排泄からの自然な流れの中で入浴してくれることもある。入浴中は皆気分よく歌うなど、リラックスした時間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で自由に休めるようにしている。一人一人の睡眠パターンを把握出来つつありそれに合わせた介助を行っている。夕方からは職員の動きや声のトーンにも配慮し静かな気持ちで夜を迎えられるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更がある時は特に症状の変化に気を配り医師や薬剤師と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の興味や好きな事を探り提供したり、職員と一緒に活動するなどしている。出来る事で役割を持って頂き感謝の気持ちを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外に出て気分転換を図っている。朝市や花火大会の見学・町家のひな祭り等に出かけている。また、日々花の水やりや玄関掃除等で外に出る機会を作っている。	車椅子の人も天気の良い日には極力戸外へ出ており、花見や紅葉狩りには全員参加している。冬場も食材買いや通院後に一緒に買い物をするなど機能低下の予防を兼ねて外出の機会を増やしている。町屋の雛祭りや花火大会は毎年楽しみにしており、利用者の意向も考慮しながら歴史館やチャグチャグ馬っこ等に出かけている。広報等で楽しいイベントを見つけては外出の機会を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持はしていないが、外出した際は本人が支払いを出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話を利用してもらっている。携帯電話を所有し自由に電話をかけている利用所もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけをし利用者と一緒に作成して季節を感じてもらっている。音や匂い・照明の強さには配慮し過度な刺激とならないようにしている。	食堂兼の居間や廊下は明るくゆったりとし、壁面やホールには、利用者と一緒に作った季節に合ったものを飾っている。他人に邪魔されず過ごせるようにソファは玄関の内外のスペースにも配置されている。午前中は習字や読書、編み物、ぬり絵等、好きな事に取り組み、それぞれが穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士を近くの席にしたり1人掛けのソファがあったり、玄関前にソファを置き中の良い方と過ごしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が作った作品を飾ったりご主人の位牌を持ち込み毎日拝んだりと本人が過ごしやすい環境を作るようにしている。	居室には利用者の使い馴れたものや、家族の写真、自作のちぎり絵や以前作ったステンドグラスの作品を飾ったり、部屋によっては位牌も置かれている。利用者の思いが尊重され、居心地良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前や写真を貼ったりトイレの表示など一人一人が分かるように工夫をしている。		